

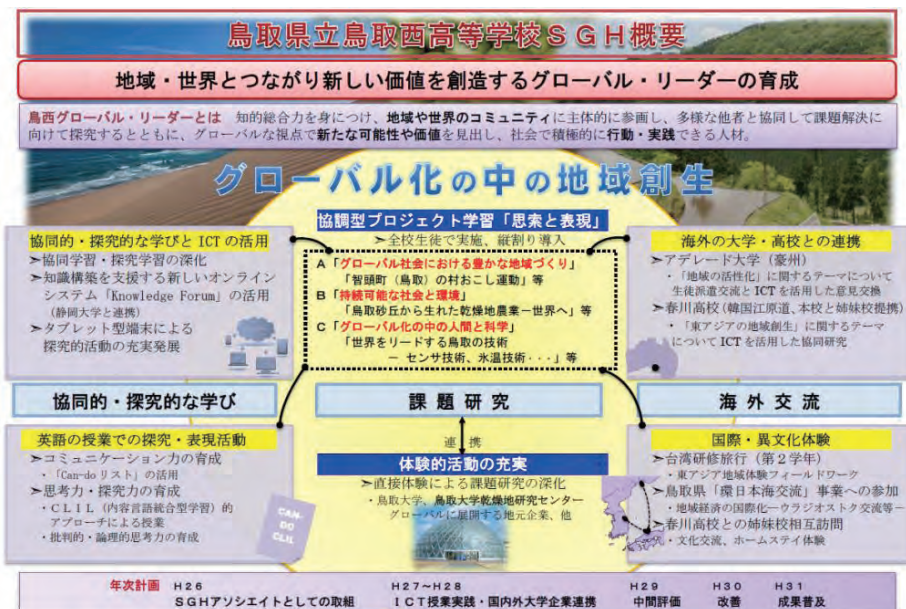
# 鳥取県立鳥取西高等学校

## 地域・世界とつながり新しい価値を創造する グローバル・リーダーの育成

### 【構想の概要】

本研究では、全校生徒を対象にグローバル・リーダーに必要な知的総合力及び探究心や協調性、行動力などの姿勢・態度の育成に効果的なカリキュラム開発に取り組む。特に「グローバル化の中の地域創生」を課題研究のテーマとして、地域・世界とつながり、探究的な活動を通じて、行動力と創造力をもって問題解決に臨める人材を育成する。

本校の目指すグローバル・リーダーに必要な思考力・コミュニケーション能力・情報活用能力等の知的能力、社会の種々の場面で活用できる実践力、および探究心や協調性などの姿勢・態度を、「協同的・探究的な学習」「課題研究」「海外交流」等により養うためのカリキュラムや手法を実証的に研究する。



**1年**

●英数両方の学力のバランスをとると同時に、現代社会、物理基礎、生物基礎など基礎的教養を幅広くしっかりと身につけます。  
●個人活動を盛ね、一人ひとりの適性と進路希望にそった文理進路をします。

単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
1年	国	英	現代社会	数学	生物基礎	物理基礎	体育	芸術	英語	家庭	情報	総合的な学習の時間	L	H	R																					

**2・3年 文系**

●人間、社会、文化などについて学習する歴史・英語・社会（地理歴史・公民）の履修が多くなります。大学の人文科学分野での学習に必要な知識や能力を身につけることができます。  
●3年次には幅広い選択科目が用意されており、希望進路に応じて学習できます。

単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
2年	国	英	地理・公民	数学	理科	体育	芸術	英語	家庭	情報	総合的な学習の時間	L	H	R																						
3年	国	英	地理・公民	数学	理科	体育	芸術	英語	家庭	情報	総合的な学習の時間	L	H	R																						

法学 経済学 社会学 経営学 文学 外国語 社会学 心理学 国際関係 教育 環境 芸術などの学部へ  
 専攻における選択プラン例 法学（裁判官・検察官・弁護士） 外交官 経営学 研究者 教員 ジャーナリスト 公務員 など

**理系**

●数学や理科の授業が多く、実験や観察、演習などを通じて自然（環境・健康など）科学的・数学的な関心や能力を伸ばします。大学の自然科学分野での学習に必要な知識や能力を身につけることができます。

単位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
2年	国	英	地理・公民	数学	理科	体育	芸術	英語	家庭	情報	総合的な学習の時間	L	H	R																						
3年	国	英	地理・公民	数学	理科	体育	芸術	英語	家庭	情報	総合的な学習の時間	L	H	R																						

医学 理学 工学 情報 生命科学 農学 教育 環境などの学部へ  
 専攻における選択プラン例 医師 看護師 薬剤師 獣医師 研究者 エンジニア 建築士 教員 公務員 など

## 課題研究「思索と表現」を軸とするカリキュラム開発

「地域・世界とつながり新しい価値を創造するグローバル・リーダーの育成」のため、(1) 協同的・探究的な学び (2) 課題研究 (3) 海外交流の開発と実践に取り組み、検証と工夫改善を重ねた。(1) では、鳥取県が重点化してきた学習科学理論研修を背景に「対話的・主体的で深い学び」の研究と実践が進み、グループ活動等による対話や議論をもとにして、探究的なテーマ学習に取り組んできた。(2) では、1年次に地域医療、防災、国際化等をテーマとするフィールドワークと研究発表等とおして、本校で開発した『探究学習マニュアル』を活用しながら、探究学習における基本的なスキルを身に付ける取組を行った。2年次・3年次には、グローバル化、地域創生や持続可能な社会、自然科学等をテーマとする課題研究を、2学年縦割りを実施した。(3) では、アデレード大学との相互派遣事業とおして、持続可能な社会やエネルギー等をテーマとする日豪比較研究を実施したほか、韓国春川高校交流や台湾研修旅行を実施した。県や外部団体が実施する海外派遣事業や大会にも積極的に応募し、日本代表に選考される生徒が複数出てくるなど、年々活躍の幅を広げている。(1)～(3)の取組が、点から線へ、線から面へと、広がりをつながりを持つことにつながったことに加え、構想を超える取組もみられた。

また、ESD日米教員交流に2名の教員が参加したことを皮切りに、ESDに関する授業実践や課題研究が進み、ユネスコスクール加盟に向けた申請を進めた結果、概要に述べたグローバル・リーダーとしての資質に加え、①システム思考、②未来思考、③規範的思考、④戦略的思考、⑤協調的思考を含む持続可能性に関するコンピテンシーを意識化した。

## 海外派遣事業と生徒の主体的な活動

海外研修・留学等に参加した生徒数の推移は、30 (H 27)、24 (H 28)、44 (H 29)、22 (H 30)、26 (H 31 予定) と横ばいに見えるが、内容を見るとアデレード大学研修への派遣者数減の影響にも関わらず、自主的参加の大会等への派遣が増加したことにより内容と質は5年間で大きく変容している。派遣生徒は海外で生徒交流や視察先を楽しむだけでなく、調査研究を同時に行い、派遣後に校外で積極的に

発表をし、その成果等を普及している。また、ビデオ会議やSNSをとおした海外の大学生や高校生との交流を継続することによって、グローバル化の中で高校生活そのものを送る生徒も増えてきた。

事実、平成30年度のグローバルクラスルーム国際模擬国連日本代表団派遣などにより国際大会に参加したり、日本地理学会高校生ポスターセッションで受賞したりするなど、全国規模の大会に出場する生徒が増加した。部活動としてグローバル課題について研究する生徒も出てきている。国内外の大会への入賞者・参加者数の推移は以下のとおりである。

	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
入賞者数	18人	30人	34人	49人	39人
参加者数	45人	59人	67人	138人	133人

## SGH事業による生徒の変容

「思索と表現アンケート」(平成27年から継続実施)と「年度末SGH事業振り返りアンケート」(平成29年から継続実施)により、生徒の変容を検証した。「コミュニケーション・コラボレーション等」は、第3学年で高次に著しく移行した。「学習の方略・メタ認知」は学年を追って高次に移行した。3年生の定点観測(図1)では、年度を追うごとに上昇している。「思索と表現」は半数以上の生徒が有益であると感じるとともに、生徒の進路意識に影響を与えている。また、海外研修や国際的な仕事への関心は6割以上に増加している。中間評価で指摘された研究の質向上への取組として、研究成果の最低基準を設定するとともに、県外大会派遣選考を新たに実施した。3年生が作成する研究レポートは質的向上がみられており、量的評価により昨年度との比較検証を実施中である。

図1

